

安倍政権上回る危険 能力欠如

菅政権が発足して3カ月。当初約7割もあった内閣支持率は4割台に急落。わずかの間に安倍政権を上回る危険性と政権担当能力のなさが明らかになっています。

学術会議任命拒否

すべての国民の大問題

「権力を握れば何でもできる」—菅政権の強権ぶりが学術会議への人事介入であらわに。菅氏は官房長官時代、人事権をテコに強権をふるってきましたが、その対象を政治からの独立性が最も求められる学者にまで広げました。戦前、学者の口をふさぎ、次いで国民の自由を圧殺し、侵略戦争の破滅の道へ。学術会議問題は全国民の問題です。

コロナ・医療

「自己責任」押しつけだけ

コロナ急拡大で医療現場はひっ迫しています。しかし菅政権は医療機関の減収補てんには後ろ向き。コロナ対応の拠点である公立・公的病院の統廃合計画もそのまま。政府の分科会が「一時停止」を求めた「GoToトラベル」にも固執し続けました。「『自助・共助・公助』の社会」と言いますが、やっていることは自己責任の押し付けだけです。



再三にわたって職員の説明を受ける菅首相=11月6日、参院予算委

国会軽視・ペーパー棒読み

答弁拒否111回

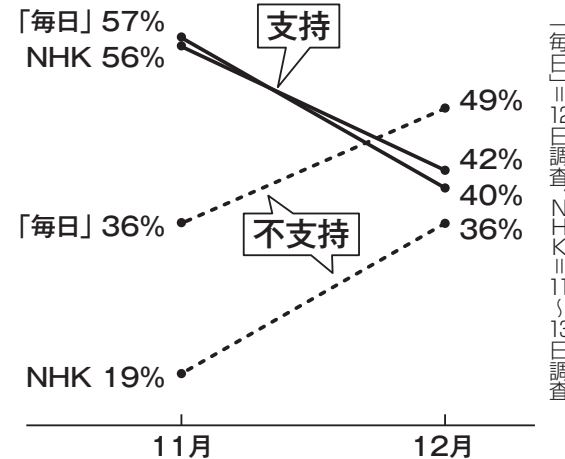
「説明拒否」「デマとフェイク」と、国会を軽視する菅首相の姿勢に不信が広がっています。国会論戦では、官僚から差し込まれたペーパーを棒読み。答弁を「控える」を連発し、臨時国会での答弁拒否は111回にも上りました。



「桜を見る会」前夜祭の問題では、安倍前首相の国会答弁がウソだったことが発覚。菅首相は「私の立場でお答えするものではない」と人ごとのような答弁に終始しました。当時、官房長官として安倍氏を一心同体で支えてきた自身の責任には目を背けています。

内閣支持率急落

不支持 初の逆転も



メディアの世論調査で菅内閣の支持率がさらに急落。「毎日」調査では支持・不支持が初めて逆転。NHK調査では支持が発足時から20%下落しました。

都構想

看板政策失う

菅政権の最大の補完勢力・維新は大阪住民投票で敗れ、「大阪都」構想という看板政策を失い破綻に陥っています。菅首相と蜜月関係の松井大阪市長は「大阪維新の会」の代表を辞任し、首相にも大きな打撃に。

コロナ禍では、維新が進めてきた市立病院や公衆衛生研究所の統廃合、生活保護削減などの「新自由主義路線」の破綻も明らかになっています。

維新政治は破綻